

●全国学力学習状況調査(小6)

課題の見られた問題の概要	結果
	—
	—
	—
	—

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
自分の市の場所を都内の地図から探す	25.4%
東京都の地図から主な都市や施設の場所を探す	27%
飲料水の確保に関する対策や事業の理解	27%
伝統の保護から特色ある町作りを結論付ける	25.6%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
関心・意欲・態度を問う問題では正答率が8～9割台と高く、多くの児童が興味・関心をもって学習に取り組んでいることが分かる。また、買い物等身近な事象については思考・判断・表現力でも8割以上の児童が正答できた。	知識・理解の面では東京都の地図から西東京市の位置や都内の主要な場所等の問題や飲料水の確保に関する知識を問う問題の正答率が2割台であった。また、資料を読み取り問題を解決する力、結論付ける力にも課題が残る。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

- 児童にとって身近な題材を教材化するなど、引き続き意欲的に活動できる学習を計画していく。
- 具体的な活動が確実な理解に繋がるよう、板書や発問を工夫するとともに、地図や写真等の資料を大型テレビモニターで映して見せる等、ICTを活用させて授業の「見える化」を図る。
- 複数の資料を関連付けて考えられることを適宜表現する活動を取り入れ、解決する力や結論を導く力に繋げる。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
3年生	3年生の段階では身近な地域の生活や地理的環境を主な題材としながら地図上での位置関係や地形等の確実な理解に繋げる必要がある。	身近な地域を題材にした具体的な活動を通して、そこから分かったことや考えたことを表現しながら、地域の地理的環境や生活についての理解に繋がるよう関係付けを促す学習を実施する。
4年生	様々な資料から読み取りや発見ができる児童は多いが、その事実からどのようなことが考えられるかまで辿り着く児童は少ない。	資料の読み取りなどでは、たくさんの情報を分かりやすく整理するために、思考ツールを効果的に活用していく。そこから、分析する時間を十分に確保する。
5年生	関心・意欲は8～9割台と高いが、解決する力(身近でない内容について、資料を基に推論したり、結論を導き出したりする力)が十分でない。	知識・理解の時間を十分に確保しつつ、資料を基に推論したり、結論を導き出したりする力を育てるために、思考ツールを用いて、資料を基に思考する場面を意識的に設定する。
6年生	歴史の学習について興味・関心の高い児童と低い児童の二極化している。また、知識量においての差も大きい。	どの児童にも興味関心をもてるように、学習する人物に関するエピソードを交えて紹介する。また、予想を立てるなど思考を促す場面も設定する。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
社会科への興味・関心は高く、多くの児童が意欲をもって学習に取り組むことができる。 グラフや写真等、資料の一部を読み取る技能や単独の資料から読み取る力は概ね備わっている。	資料から分かることを選んだり、読み取った事実から自分の考えを導き出したりすることを苦手とする児童が多い。 また、複数の資料を組み合わせて読み取る力に課題がある。特に自分の生活に身近でない事象に対してその傾向が強い。

●学校全体で取り組む内容

○複数の資料を関連付けて考えられることを思考ツール等を活用して書き出したり話し合ったりする活動を適宜取り入れ、個々の読み取りをグループで話し合ったり、全体で共有したりすることで比較・分類の機会を多く設定する。

○資料の中の数値の変化や他の資料との異同等に着目しながら読み取る方法が身に付くよう、適切な指示や発問、資料の提示を適宜行うようにする。

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
3年生	身近な題材に対して意欲的に取り組む。知識・理解面や資料活用の技能ではワークテストの平均正答率で9割を超えているが、思考・判断・表現力では正答率が8割台と、やや下がる。	地域における社会的事象の観察・調査を通して社会的事象の特色や相互の関連について考え、表現できるよう児童にとって身近な場所の探検や地図作り等の活動を取り入れたり思考ツール等を適切に利用したりする。
4年生	様々な資料から、必要な情報を取り出すことは得意である。一方で、そこから思考する過程へと繋がっていない現状がある。	情報の一つ一つから、なぜそうなのかという理由をはっきりさせる過程を大切にす。その際に、グループでの学習や、思考ツールの活用等で、思考活動を活発にする。
5年生	興味・関心はとても高く、意欲的に学習に取り組んでいるが、都道府県の名称や位置などの基本的な知識の定着が十分でない児童が多い。	適宜地図帳やICT機器を活用して、学習している都道府県の位置を確認しながら進める。産業の様子を通して、予想したり、思考したりする場面を意図的に設定する。
6年生	歴史の学習について興味関心の高い児童と低い児童の二極化している。また、知識量においての差も大きい。	どの児童にも興味関心をもてるように、導入を学習する人物に関するエピソードを交えて紹介する。また、予想を立てるなど思考を促す場面も設定する。